

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
ストック効果の最大化を図る社会資本整備の推進		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<p><⑨メンテナンス産業の育成・拡大> 【インフラ長寿命化計画の策定】 ■ インフラ長寿命化計画(行動計画(地方公共団体においては公共施設等総合管理計画)及び個別施設計画)の策定</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>インフラ長寿命化基本計画の策定(2013年11月)</p> <p>(1)国 インフラ長寿命化計画(行動計画)の策定(～2015年度)</p> <p>個別施設計画の策定(～2020年度)</p> <p>《関係省庁》</p> <p>(2)地方 { 公共施設のストック適正化(公共施設等総合管理計画等の策定促進)に関する施策と同じ }</p> <p>《関係省庁》</p> </div>							<p>(再掲) 公共施設等総合管理計画を策定した地方公共団体数 【目標：2016年度末までに100%】</p> <p>(再掲) 個別施設(道路、公園など各施設)ごとの長寿命化計画(個別施設計画)の策定率 【目標：2020年度末までに100%】</p>	

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
		2016年度		2017年度	2018年度					
ストック効果の最大化を図る社会資本整備の推進		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
		<⑨メンテナンス産業の育成・拡大> 【メンテナンス産業の育成・拡大】 ■メンテナンス産業の育成・拡大の基礎となる公共施設等総合管理計画、および個別施設計画については、それらを策定した地方公共団体数で進捗を管理するとともに、メンテナンス技術者を育成・確保するための民間資格の登録制度を活用する。								
		民間資格の登録制度の活用(2015年度～)		民間技術者の育成・活用を促進、点検・診断等の業務の質を確保						
		《国土交通省、関係省庁》								登録された民間資格を保有している技術者数 【目標：2020年度末まで増加傾向】
		「インフラメンテナンス国民会議」(仮称)を設置(2016年度～)		2016年度内に、市場を拡大するインフラメンテナンス国民会議を創設し、技術開発の促進や海外展開等を図る。(国土交通省)		産学官が連携し、民間の新技術の掘り起こしや異業種からの新規参入の促進、産業規模について検討、民間のノウハウの積極的な導入、メンテナンスに係る高度な技術者の育成				
	「インフラメンテナンス大賞」(仮称)を創設(2016年度～)		インフラメンテナンスに係るベストプラクティスを普及し、事業者、研究者等の取組を促進							
	《国土交通省、関係省庁》									
	民間企業の技術・ノウハウやスケールメリットを活かして効率的な維持管理を図るため、地域建設企業の活用も図りながら複数の分野や施設の維持管理業務を複数年にわたり委託する包括的民間委託を普及									
	《国土交通省》									

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)		
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度	2017年度	2018年度						
社会資本整備を支える現場の担い手・技能人材に係る構造改革等	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会						
	<⑩ 技術者、技能労働者等の処遇の改善、教育訓練の充実強化、若者・女性の活躍の推進など中長期的な担い手の確保>									
	【建設業の担い手の確保・育成】									
	■ 適正な賃金水準の確保、社会保険等未加入対策の徹底等による技能労働者の処遇改善									
	元請・下請間での法定福利費の確保に向けた取組等、社会保険未加入対策を徹底									
	《国土交通省、関係省庁》	建設技能労働者の経験が蓄積されるシステムの構築(2016年度後半に試行運用、2017年度の運用開始を目指す)						建設業許可業者の社会保険への加入率 【目標：2017年度を目途に100%】		
	ダンプینگ対策に向けて、低入札価格調査制度等の未導入団体に対し働きかけを強化									
	《国土交通省、関係省庁》	■ 若者や女性の更なる活躍の推進、教育訓練の充実強化								「登録基幹技能者制度」(2008年度～)に基づく登録基幹技能者の数 【目標：2020年度末まで増加傾向】
	若者の早期活躍を推進するため、今後の活躍が期待される若者を建設ジュニアマスターとして表彰(2015年度～)する等、誇りを持てる環境整備を推進するとともに、技術検定の学科試験(2級)を実務経験なしで受験可能に(2016年度～)									
	・人材の確保のため、建設ジュニアマスター表彰制度の導入(2015年度開始)、技術検定の学科試験(2級)を17歳となる年度で受験可能とすること(2016年度開始)、技術検定の試験会場を拡大(建築施工管理技士では13都市から19都市)(2015年度開始)することとした。(国土交通省) ・中長期的な担い手の確保・育成に向けた施策目標と総合的な対策について、中央建設業審議会・社会資本整備審議会に設置された基本問題小委員会において2016年6月にとりまとめる。(国土交通省) ・2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の関連整備等による一時的な建設需要の増大に対応し、技能労働者は国内での確保に最大限努めることが基本とするが、その上で、緊急かつ時限的措置として、即戦力となり得る外国人材(技能実習修了者)の活用促進を図り、大会の成功に万全を期す。(国土交通省)									
《国土交通省、関係省庁》	女性の更なる活躍を推進するため、「もっと女性が活躍できる建設業行動計画」(2014年度～)等を実践								女性技術者・技能者数 【目標：2019年を目途に2014年比で倍増を目指す】	
教育訓練体系の整備を目指す地域連携ネットワークの構築への支援を実施(2014年度～)										
《国土交通省、関係省庁》	35歳以下若手技術者を新規に一定割合以上雇用する企業数 【目標：-】 ※目標値の設定は行わず、企業数の変化をモニターする									

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度		2017年度					2018年度
社会資本整備を支える現場の担い手・技能人材に係る構造改革等	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
	<p><⑪ 新技術・新工法の活用や施工時期の平準化など建設生産システムの生産性の向上を推進> 【建設生産システムの生産性の向上】 ■ 新技術・新工法の活用</p>								
	<p>民間事業者等により開発された新技術を公共工事等において積極的に活用・評価するため「公共工事等における新技術活用システム」(NETIS)を運用(2001年度より)</p>							<p>現場実証により評価された新技術の件数 【目標：－】</p> <p>※数値目標は設定せず、件数をモニターする</p>	
	<p>《国土交通省、関係省庁》</p>								
	<p>ICT技術の活用により高効率・高精度な施工を実現し、建設業における現場の生産性の向上や品質の確保等を図る。(2008年度※～) ※情報化施工の試行開始</p>								
<p>《国土交通省》</p>									
<p>生産性の飛躍的な向上を目指すべく、検討委員会等を開催し、集中改革期間中に、生産性向上に関する効果の把握、生産性向上に向けたKPIの設定及びその達成に向けたプロセスについて検討し、着手する</p>									
<p>《国土交通省》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化による建設現場の生産性向上(i-Construction)を図るため、測量・設計から施工更に管理に至る全プロセスにおいて情報化を前提に新基準を導入 ・新基準により生産性向上を促進 									
<p>《国土交通省》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設生産システムの飛躍的な生産性の向上に向けた取組として、公共工事へのICTの活用のため、新たに監督・検査基準や積算基準を2015年に整備した。(国土交通省) ・現場での建設生産システムの生産性向上のため、ICT技術を導入し施工効率の高い土工(ICT土工)を2016年度より適用する。また、ICT土工に対応できる技術者・技能者の養成を行う。(国土交通省) ・IoTなど最新技術の動向等を踏まえるため、産学官よりなるi-Constructionを推進するコンソーシアムを2016年度に設立する。(国土交通省) 									
<p>■ 施工時期等の平準化</p>									
<p>計画的な事業の進捗管理を行い、工事・業務における適切な債務負担行為の活用や工事着手時期の柔軟な運用等により、年度内の工事量の偏りを抑制</p>									
<p>《国土交通省》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共事業の施行時期の平準化のため、施工時期等の平準化に向けた計画的な事業執行を推進するよう2015年12月通知し、27-28年度2箇年国債を約200億円活用した。(国土交通省) ・地方公共団体の公共事業の施行時期の平準化のため、ゼロ県債の活用や国の取組事例を参考に平準化を推進するよう、地方公共団体に2016年2月通知した。(国土交通省、総務省) 									
<p>《国土交通省》</p>									

3. 地方行財政改革・分野横断的な取組

※青字による解説は、原則28年度に取組を開始するもの

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度		2017年度				
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	<p>＜①地方創生、行財政改革等の地方の頑張りを引き出す地方財政制度の改革＞</p> <p>○まち・ひと・しごと創生事業費における取組の成果の一層の反映</p>							
	<p>○2015年度 ・「まち・ひと・しごと創生事業費」の創設</p> <p>《総務省自治財政局》</p>	<p>地方版総合戦略に基づく取組の実施</p> <p>↓</p> <p>「まち・ひと・しごと創生事業費」の地方交付税の算定のうち、「人口減少等特別対策事業費」について地域の活性化等の取組の成果の一層の反映を検討</p> <p>地方団体の意見も聞きながら、「必要度」(2015年度:5000億円)から「成果」(2015年度:1000億円)へシフト</p> <p>地方版総合戦略に基づく取組の成果の実現具合等に応じ、「成果」を反映した配分を集中改革期間の後は、5割以上とすることを目指す</p> <p>「必要度」「成果」の算定基準に基づく各自治体への配分につき詳細内訳(自治体ごとの各項目の数値、算定結果)を「見える化」</p>						<p>・まち・ひと・しごと創生事業費に占める成果反映配分の割合</p> <p>【集中改革期間の後に5割以上を目指す】</p>

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)					
		2016年度		2017年度					2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会									
	<p>＜①地方創生、行財政改革等の地方の頑張りを引き出す地方財政制度の改革＞</p> <p>○公営企業の経営効率化の促進</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>○2015年度 ・病院事業について、「地域医療構想」を踏まえた新公立病院改革プランを策定し、再編・ネットワーク化に取り組む地方自治体に対し、交付税措置を重点化</p> <p>《総務省自治財政局》</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>水道事業について、経営戦略を策定し、広域化等に取り組む地方自治体に対し、交付税措置を重点化</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>下水道の高資本費対策に係る交付税措置について、経営戦略策定を要件化</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>水道の高料金対策に係る交付税措置について、経営戦略策定を要件化</p> </div>												
							<p>・経営戦略の策定率 【2020年度までに100%】</p>	<p>・地方の自主的な取組を前提としつつ、地方公営企業分野全体における改革の成果を事後的に検証する指標（例えば、収支、繰出金等）</p>					
							<p>・新公立病院改革プランの策定率 【2018年度までに100%】</p>						

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 2px;">通常国会</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 2px;">概算要求 税制改正要望等</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 2px;">年末</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 2px;">通常国会</div>					
	<h3 style="margin: 0;">＜①地方創生、行財政改革等の地方の頑張りを引き出す地方財政制度の改革＞</h3> <div style="margin-top: 10px;"> <p>○広域連携への支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・広域連携(連携中枢都市圏(2015年度～)・定住自立圏)を地方交付税で支援</p> <p>※各地方公共団体が作成する「地方版総合戦略」を踏まえ、連携中枢都市圏の形成数のKPIを設定</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>広域連携(連携中枢都市圏・定住自立圏)を地方交付税で支援</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>左記KPIを踏まえ、取組を推進</p> </div> <p style="text-align: center;">《総務省自治行政局・地域力創造グループ》</p> <p>○公共施設の集約化、複合化等の支援</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○2015年度 公共施設等総合管理計画を策定し、公共施設等の集約化・複合化等に取り組む地方自治体に対し、交付税措置のある地方債の特例を創設(2015年4月)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>公共施設の集約化、複合化等を地方交付税で支援</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <p>活用状況等を踏まえ、必要な支援策を実施</p> </div> <p style="text-align: center;">《総務省自治財政局》</p> </div>								
							<ul style="list-style-type: none"> ・広域連携に取り組む圏域数 【連携中枢都市圏は2015年度に目標圏域数を設定。定住自立圏は2020年度までに140圏域】 ・公共施設等総合管理計画を策定した自治体数 【2016年度までに100%】 ・施設の集約化・複合化等を実施した自治体数 【増加、進捗検証】 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人口増減など事後的な検証を行うための指標 ・資産老朽化比率 	

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2016年度								2017年度
2014・2015年度 《主担当府省庁等》	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	＜②先進的自治体の経費水準の基準財政需要額算定への反映等＞								
	歳出効率化に向けた業務改革で他自治体のモデルとなるようなものを基準財政需要額の算定に反映 （自治体への影響等を考慮しつつ、複数年にかけて段階的に反映）								
	地方行政サービス改革に係る調査によって把握することとしている自治体の業務改革のうち、 単位費用に計上されている全ての業務(23業務)が検討対象								
	窓口業務のアウトソーシングについては、都道府県の協力も得ながら全国展開を進める。これを含めトップランナー方式の残る検討対象業務について、関係省庁の協力も得て、先進自治体の実態把握や課題の整理などを行う。以上の取組により、対象業務すべてについてできる限り集中改革期間中に導入を目指す	対象業務の選定 (23業務)	庶務業務、情報システムの運用など16業務について 基準財政需要額の算定に反映開始	各自治体が十分な準備期間を確保できるよう毎年の変化幅やスケジュールを前もって明らかにしつつ、進める		自治体への影響等を考慮しつつ、複数年(概ね3～5年程度)かけて段階的に反映	残る7業務について、課題等を検討し、可能なものから導入	自治体への影響等を考慮しつつ、段階的に反映	・反映を開始した対象業務【23業務全てについてできる限り集中改革期間中に導入を目指す】 ・歳出効率化の成果（事後的に検証する指標） ※どの程度の地方自治体がどのような改革に取り組み、どのような成果を挙げたか
	地方税の実効的な徴収対策を行う自治体の徴収率を標準的な徴収率として基準財政収入額の算定に反映 （自治体への影響等を考慮しつつ、複数年にかけて段階的に反映）								
上位3分の1の自治体が達成している徴収率(過去5年平均)を標準的な徴収率として算定									
	標準的な徴収率を設定	基準財政収入額の算定に反映開始			自治体への影響等を考慮しつつ、2020年度までに段階的に反映	先進的な取組の具体的な全国展開のための手法及びトップランナー方式における適切な経費水準の在り方については、28年度改正地方交付税法を踏まえつつ、引き続き推進委員会制度WGで検証していく			
《総務省自治財政局》									

多くの自治体が自ら先進的な取組を応用・実施することを促すため、自治体・住民が広くアクセスできるよう、先進的な取組の具体的な内容、取組を推進した背景等について調査した結果等とともに、トップランナー方式について、その趣旨、経費の算定基準、今後のスケジュールの考え方をホームページ等で公表する

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度	2017年度	2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			
		<p>＜③地方財政制度の改革に係る経済効果の検証＞</p> <p>○改革の経済効果の検証(民間委託等に係るものも含む)</p> <p>総務省から基礎データの提供を受け、経済効果の検証手法について、内閣府を中心に検討</p> <p>左記検討結果に基づき検証</p> <p>《内閣府政策統括官(経済社会システム担当)、総務省自治財政局》</p> <p>自治体の頑張りを人口、雇用等を含め多面的に評価する経済指標の在り方、民間委託等の地方自治体の取組が地域経済に影響を与えるメカニズムの解明など、経済効果の定性的・定量的分析を行う</p> <p>地方財政の各種データについて、学識者の協力を得ながら、統計的手法を用いた分析等を進め、自治体の頑張りの度合いを明らかにする</p>						

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度	2017年度	2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<p>＜④公営企業、第三セクター等の経営の改革＞</p> <p>○公営企業会計の全面的な「見える化」</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○2014年度</p> <p>・2015年度から2019年度までの5年間で、下水道及び簡易水道事業を「重点事業」と位置付け、公営企業会計の適用に取り組むよう地方自治体に要請(2015年1月)</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○2015年度</p> <p>・新会計基準に基づく決算の公表(2015年9月)</p> <p>・経営比較分析表について、2015年度は上・下水道事業について公表</p> </div> <p>《総務省自治財政局》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>公営企業については、給水原価等も含め経営状況の見える化を進める</p> </div>							
	地方財政措置等により支援							
	重点事業(下水道事業、簡易水道事業)を中心に、公営企業会計の適用を推進				(重点事業やその他の事業の進捗状況を踏まえ、更なる推進方策(法制化等)について、検討)		・重点事業における公営企業会計の適用自治体数(人口3万人以上) 【2020年度予算から対象自治体の100%】 【人口3万人未満の自治体については進捗検証】	
	公営企業会計の適用の進捗状況を調査、各都道府県・市町村別に公表(毎年度)							
	「経営比較分析表」の公表分野の拡大(毎年度2～3事業分野程度)や廃止・民営化等の検討に資する指標を研究会等で検討の上、追加する等内容の充実を図り、公営企業の全面的な「見える化」を強力に推進							

経済・財政再生計画 改革工程表

		集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度		2017年度	2018年度					
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	<h3><④公営企業、第三セクター等の経営の改革></h3> <p>○公営企業の抜本的な改革(事業廃止、民営化、広域的な連携及び民間活用)の検討の推進</p>									
	<p>○2014年度 ・各地方自治体に対し、公営企業の経営健全化等に取り組む前提として、廃止・民営化等を含めた経営のあり方を検討するよう要請するとともに、引き続き、公営企業として事業を継続する場合は、「経営戦略」を策定し、その策定にあたっては、広域化や民間の資金・ノウハウの活用等についても検討するよう要請(2014年8月)</p> <p>・病院事業について、新公立病院改革ガイドラインを策定し、各地方自治体に対し、新公立病院改革プランに基づく再編・ネットワーク化の推進等に取り組むよう要請(2015年3月)</p>	<p>抜本的な改革についての優良事例集を作成し、横展開を推進</p> <p>(優良事例を抽出)</p>		<p>(以降、定期的に更新し、内容の充実を図る)</p>		<p>・地方の自主的な取組を前提としつつ、地方公営企業分野全体における改革の成果を事後的に検証する指標(例えば、収支、繰出金等)</p>		<p>・収支赤字事業数【2014年度決算(1174事業)より減少】</p>		
<p>抜本的な改革の取組状況や課題等について、毎年度調査結果について、個別団体ごとに公表し、「見える化」を推進</p> <p>(課題等を抽出)</p>		<p>研究会を立ち上げ、廃止・民営化等の考え方や対象・課題・方策、広域連携、改革の成果の検証等の方策について検討</p> <p>検討結果に基づき、左記の方策を実施</p>		<p>個別事業における広域化等の推進 (連携中枢都市圏構想等における都市間連携の推進、各都道府県別の広域化検討体制の構築(水道)、最適化・広域化・共同化の推進(下水道)、新改革プランに基づく再編・ネットワーク化の推進(病院))</p>						
<p>《総務省自治財政局》</p>		<p>公営企業等の行う各種事業についても、地域の実情を踏まえつつ広域化を進める。このため、連携中枢都市圏や定住自立圏の枠組みも活用し、公営企業の経営統合を含む広域連携の取組を促す。水道事業の広域化について、28年度においてはできる限り早期に都道府県及び都道府県内全ての市町村をもって構成する検討体制の構築など、水道事業の経営基盤強化等の取組を促す。下水道事業について、処理場の統廃合など事業の広域化・共同化に取り組むこととし、(28年度においては、関係省庁が連携して、都道府県構想において広域的維持管理体制の整備等について位置づけるなどの取組を促す)。28年度中に策定される新公立病院改革プランの中で、公立病院の再編・ネットワーク化の計画の明記を促す等の取組を推進する。</p>								

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度	2017年度	2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	<p>通常国会</p> <p>概算要求 税制改正要望等</p> <p>年末</p> <p>通常国会</p> <p>＜④公営企業、第三セクター等の経営の改革＞</p> <p>○経営戦略の策定を通じた公営企業の経営基盤強化</p>							
	<p>○2014年度</p> <p>・各公営企業が、将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な基本計画である「経営戦略」の策定を地方自治体に要請(2014年8月)</p> <p>・病院事業について、新公立病院改革ガイドラインを策定し、各地方自治体に対し、「地域医療構想」を踏まえた新公立病院改革プランを策定するよう要請(2015年3月)</p> <p>○2015年度</p> <p>・「経営戦略ガイドライン」の策定</p> <p>・病院事業について、新公立病院改革プランに基づく再編・ネットワーク化に取り組む地方自治体に対し、交付税措置を重点化</p> <p>《総務省自治財政局》</p>	<p>経営戦略の策定について、財政支援措置を講じ、集中的に推進</p>	<p>経営戦略の策定に係る進捗状況を毎年度調査 調査結果について、個別団体ごとに公表し、取組状況の「見える化」を推進</p>	<p>水道の高料金対策及び下水道の高資本費対策に係る交付税措置について、経営戦略策定を要件化</p>	<p>策定の遅れている団体・分野の取組を促進</p>	<p>・経営戦略の策定率 【2020年度までに100%】</p> <p>・新公立病院改革プランの策定率 【2018年度までに100%】</p> <p>・収支赤字事業数 【2014年度決算(1174事業)より減少】</p>	<p>・地方の自主的な取組を前提としつつ、地方公営企業分野全体における改革の成果を事後的に検証する指標 (例えば、収支、繰出金等)</p>	

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)			
		2016年度	2017年度	2018年度							
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会							
	<p>＜④公営企業、第三セクター等の経営の改革＞</p> <p>○第三セクター等の改革</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○2014年度 ・「第三セクター等の経営健全化等に関する指針」を策定し、各地方自治体に対し、2014年度以降においても、引き続き、関係を有する第三セクター等について効率化・経営健全化に取り組むことを要請(2014年8月)</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> <p>第三セクター改革などの先進事例集の作成・公表</p> </div> <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; width: 60%;"> <p>(以降、定期的に更新し、内容の充実を図る)</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; width: 80%;"> <p>第三セクター等の財政的リスク等を調査・公表し、各地方団体の経営健全化の取組を推進</p> </div> <div style="border: 1px dashed orange; padding: 5px; margin-bottom: 10px; display: inline-block; width: 60%;"> <p>健全経営の維持に向けた取組を引き続き推進</p> </div> <p>《総務省自治財政局》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px; display: inline-block; width: 60%; color: blue;"> <p>改革の先進事例集を作成・公表し全国展開する</p> </div>										
							・第三セクター等に対する財政支援額(補助金、損失補償等) 【減少】				

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度	2017年度	2018年度				
地方交付税をはじめとした地方の財政に係る制度の改革		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			
	<p>〈⑤地方創生の取組支援のための新型交付金の創設・活用〉</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>・2014年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定。これを踏まえ、2015年度中に、地方公共団体において「地方版総合戦略」を策定</p> <p>・2016年度当初予算での新型交付金の創設に向けて、予算額で1,000億円超、事業費ベースで2,000億円超の概算要求を行い、予算編成過程において、具体的な制度設計を行う</p> </div> <p>《内閣府地方創生推進事務局》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>新型交付金の交付を通じ地域間連携を促すとともに、交付対象となった先駆的事例の全国展開を進める</p> </div>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>地方創生の取組支援のための新型交付金の活用</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>自治体から事業申請 → KPIの設定状況や先駆性について審査 → 交付決定</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>自治体が設定したKPIを把握し、毎年モニタリングしていく</p> </div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px;"> <p>新型交付金事業全体の進捗検証、PDCAを実行</p> </div>	<p>新型交付金の支援対象となる事業に対して自治体が設定したKPIの達成状況を把握し、必要に応じて「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の改定について検討を行うとともに、翌年度以降の事業の採択に反映</p>	<p>・新型交付金対象事業について自治体において設定するKPI 【全事業】</p> <p>・新型交付金の交付対象とする個別事業(先駆的・優良事例)の数 【2020年度までの累計数について、予算の執行状況を勘案しつつ検討】</p>	<p>・新型交付金事業全体の効果(経済・財政効果等) (事後的に検証する指標)</p> <p>・「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に示された各種KPI</p>			

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
		2016年度	2017年度	2018年度					
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<p>＜⑥自治体の行政コストやインフラの保有・維持管理情報等の「見える化」の徹底、誰もが活用できる形での情報開示＞</p> <p>○地方財政の全面的な「見える化」</p>								
地方 行政 財政 の 「 見 え る 化 」	各団体の行政コスト等の経年比較や他団体比較、団体自らの分析結果を取りまとめた財政状況資料集(Excel形式)等を総務省ホームページにおいて公表	住民一人当たり行政コストについて、 ・維持補修費、普通建設事業費(新規整備・既存更新)等の性質別 ・民生費、衛生費、教育費等の目的別 で網羅的に、財政分析の内容も含めて「見える化」				集中改革期間の取組の効果を踏まえ、「見える化」の促進についてさらに検討	固定資産台帳により土地情報について「見える化」し、その有効活用を促す		
		公共施設等の老朽化対策という新たな課題に対応し、固定資産台帳の整備に合わせて ・各自治体の「資産老朽化比率」を「見える化」し、将来負担比率との「組合せ分析」を導入 ・施設類型毎の一人当たり面積等のストック情報や固定資産台帳による土地情報等を「見える化」 により、ストック情報を全面的に「見える化」							
		データ検索機能や分析のためのグラフ作成機能の追加等により、地方財政決算情報ホームページの使いやすさの一層の向上を図る		面積や人口規模、高齢化比率等の条件を指定して、自治体や住民が他団体と比較できるよう、データベースの整備を検討し、必要に応じて適切な措置を実施					
		予算・決算の対比に関する情報開示の充実による「見える化」につき、自治体の事務負担にも配慮しながら取り組む		27年度決算より、経年比較や類似団体比較を含めて住民一人当たりコストについて性質別・目的別に網羅的な見える化を実施する。 様々な条件で自治体間の比較ができる形での「見える化」の検討を行う。					
	《総務省自治財政局》	28年度において都道府県・政令市に係る予算・決算について自治体の事務負担にも配慮しながら取り組む							

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度		2017年度				
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
地方行財政の「見える化」	<⑥自治体の行政コストやインフラの保有・維持管理情報等の「見える化」の徹底、誰もが活用できる形での情報開示>							
	○公共施設等総合管理計画	特別交付税措置等により支援			施設の集約・複合化等の事業の着実な実施やそれによるライフサイクルコストの縮減及び各自治体が策定する公共施設等総合管理計画と個別施設計画の間の整合性を確保			
	公共施設等総合管理計画は、公共施設等の現況及び将来の見通し(老朽化の状況や利用状況をはじめとした公共施設等の状況、総人口や年代別人口についての今後の見通し、公共施設等の維持管理・修繕・更新等に係る中長期的な経費の見込みやこれらの経費に充当可能な財源の見込み等)を踏まえて策定するよう引き続き促進	更新・統廃合・長寿命化等の取組の進捗を踏まえた継続的な計画の見直し・充実化			・公共施設等総合管理計画を策定した地方自治体数【2016年度までに100%】			
		施設の集約化・複合化等を促進			・施設の集約化・複合化等を実施した地方自治体数【増加、進捗検証】			
		先進団体の取組・ノウハウを横展開						
	○2014年度 ・公共施設等総合管理計画の策定を総務大臣通知により要請(2014年4月)	施設更新等の経費見込みや延床面積に関する目標などの総合管理計画の主たる記載項目を、資産老朽化比率や毎年度の取組内容も含めて横比較できるように各地方公共団体分を統合したものを総務省ホームページで公表						
	○2015年度 ・公共施設等の集約化・複合化等に踏み込んだ計画となるよう努める旨を総務大臣通知により要請(2015年8月)	各地方公共団体の総合管理計画の改訂の有無等を毎年度調査・公表						
		資産老朽化比率等の複数の指標を適切に組み合わせて経年比較や横比較を行うことで、老朽化対策の進捗状況を「見える化」						
		集約化・複合化等による成果事例の収集及び成果の把握手法の検討						
		上記結果に基づき成果を検証						
《総務省自治財政局》	個別団体ごとの資産老朽化比率や一人当たりの投資的経費の内訳(既存施設更新・新規施設整備)、維持補修費も含めた決算情報について、経年変化や類似団体比較等を実施した上で各団体の分析コメントを付して公表							
	計画の対象期間、集約・複合化等の状況、それによる床面積の縮小やライフサイクルコストの縮減、個別施設の住民一人当たり費用の見える化などについて、自治体の取組を同じベースで横比較できるよう、総務省及び個別施設計画の所管省庁が連携して、各自治体に対し個別施設計画上のガイドライン及び通知等により助言。その際には、集約化・複合化等及び広域での取組推進のための都道府県の役割を明示するとともに、計画の対象期間についてはできるだけ中長期とすることについて、着実に推進する							

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度				
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			
	<p><⑥自治体の行政コストやインフラの保有・維持管理情報等の「見える化」の徹底、誰もが活用できる形での情報開示></p> <p>○地方公会計</p>							
地方行財政の「見える化」	<p>○2014年度 ・固定資産台帳を含む統一 的な基準による地方公会計 の整備を総務大臣通知によ り要請(2015年1月)</p> <p>《総務省自治財政局》</p>	特別交付税措置等により支援						<p>・固定資産台帳を整備した地方自治体数【2017年度までに100%】</p> <p>・統一的な基準による地方公会計を整備した地方自治体数【2017年度までに100%】</p>
		統一的な基準による地方公会計の整備を促進			各団体の財務書類や固定資産台帳を総務省ホームページにおいても公表			
		先進団体の取組・ノウハウを横展開			地方公会計等を活用し、予算編成等の財政マネジメントを強化			

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
		2016年度	2017年度	2018年度					
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<p>＜⑥自治体の行政コストやインフラの保有・維持管理情報等の「見える化」の徹底、誰もが活用できる形での情報開示＞</p>								
地方行財政の「見える化」	○公営企業会計	地方財政措置等により支援							
	○2014年度 ・2015年度から2019年度までの5年間で、下水道及び簡易水道事業を「重点事業」と位置付け、公営企業会計の適用に取り組むよう地方自治体に要請(2015年1月)	重点事業(下水道事業、簡易水道事業)を中心に、公営企業会計の適用を推進						(重点事業やその他の事業の進捗状況を踏まえ、更なる推進方策(法制化等)について、検討)	・重点事業における公営企業会計の適用自治体数(人口3万人以上)
	○2015年度 ・新会計基準に基づく決算の公表(2015年9月) ・経営比較分析表について、2015年度は上・下水道事業について公表	公営企業会計の適用の進捗状況を調査、各都道府県・市町村別に公表(毎年度)							【2020年度予算から対象自治体の100%】 【人口3万人未満の自治体については進捗検証】
	《総務省自治財政局》	「経営比較分析表」の公表分野の拡大(毎年度2～3事業分野程度)や廃止・民営化等の検討に資する指標を研究会等で検討の上、追加する等内容の充実を図り、公営企業の全面的な「見える化」を強力に推進							
	○地方交付税	地方交付税の各自治体への配分の考え方・内容の詳細、経年変化について、市町村分も含め誰もが活用できる形で総務省ホームページに公開							
・地方交付税(都道府県分)の基準財政需要額の内訳等について総務省ホームページに公開	引き続き、「見える化」の内容について充実を図る								
《総務省自治財政局》	総務省ホームページに28年8月を目途に公開する								

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度	2017年度	2018年度				
地方行財政の「見える化」		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			
	＜⑦民間委託やクラウド化等への取組状況の比較可能な形での開示＞							
	助言通知発出 (平成27年8月28日付総務大臣通知)	総務省において、取組状況や今後の対応方針について、調査・ヒアリング等を実施し、必要に応じて助言等を実施			改革期間を通じ、同様の取組を実施			クラウド化への取組状況について、団体数に加え導入対象業務数を含む見える化を行う。自治体クラウドグループの取組事例(全国で56グループ)について、28年夏までに、クラウド化業務範囲、関連経費詳細項目の比較等や、当該経費の削減方策・効果等について深掘り・分析及び整理・類型化を実施し、その成果を活用して自治体クラウド導入の取組を加速する。
	現状について、「見える化」・比較可能な形での公表を実施予定	総務省・各自治体において、民間委託やクラウド化等の取組状況(実施率)、住民一人当たりコスト、歳出効率化効果や今後の対応方針について、「見える化」・比較可能な形での公表を検討・実施			改革期間を通じ、同様の取組を実施			
	民間委託に係る歳出効率化等の成果について、業務改革モデルプロジェクトにおいて把握手法を検討・確立			上記手法を活用し、歳出効率化等の成果を検証				
《総務省自治行政局、地域力創造グループ》								

経済・財政再生計画 改革工程表

2014・2015年度 《主担当府省庁等》		集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
地方行財政の「見える化」	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
	<p> <⑧公共サービス関連情報の「見える化」、エビデンスに基づくPDCAサイクルの抜本的強化> <⑨法令・国庫支出金等で基本的枠組みを定めている分野におけるパフォーマンス指標の「見える化」と関係法令等の見直し、それを踏まえた国庫支出金等の配分の見直し> 《制度所管府省庁担当局》 <⑩法令・国庫支出金等で基本的枠組みを定めている分野におけるパフォーマンス指標の「見える化」と関係法令等の見直し、それを踏まえた地方交付税の配分の見直し> 《総務省自治財政局》 </p>								
	公共サービス関連情報の「見える化」について、具体的に検討（内閣府において取りまとめ、経済財政諮問会議においても議論）		法令・国庫支出金等で基本的枠組みを定めている分野（例えば医療、介護、教育等）におけるパフォーマンス指標（各府省庁の行う規模が一定以上である等の主要な事業に対する成果を計測する指標）を行政事業レビューの成果目標も参照しつつ具体的に検討・特定（内閣府において取りまとめ、経済財政諮問会議においても議論）		左記の検討結果に基づき実施				・都道府県別の住民一人当たり行政コストとその財源内訳（地方税・地方交付税・国庫支出金等）
《内閣府政策統括官 (経済社会システム担当)》	国庫支出金の事業の現状の把握のため、所管府省庁を対象に調査を実施し、一定の金額以上または重要であると判断される国庫支出金について、所管府省庁からヒアリングを実施。調査・ヒアリングで明らかになった実態や課題等をもとに、国庫支出金の性格に応じ、具体的な検討を進め、国庫支出金のパフォーマンス指標の設定に関する横串を通した全体の仕組みを構築。 地方の活性化を目指す補助金等のうち、自治体を介さない補助金等についても、自治体の取組との整合性や地方独自の工夫の引き出し方も含め、ワイズ・スペンディングに向けた検討を行う。		パフォーマンス指標の進捗状況を「見える化」し、行政事業レビューの取組とも連携しつつ、各府省庁、各自治体自らが成果を評価したり類似団体間で比較可能とする		左記の「見える化」を踏まえた国庫支出金等の配分の見直し	左記の見直しを踏まえた地方交付税の配分の見直し			
	都道府県別の一人当たり行政コストとその財源内訳（地方税・地方交付税・国庫支出金等）の「見える化」を行い、比較可能な状態にすることで、その経年変化のモニタリング等を行う。その際、都道府県とも、域内の基礎自治体の情報を共有し、連携して取り組む				KPIやパフォーマンス指標（又は行政事業レビューの成果目標）等を掲げた事業について、行政事業レビューの取組とも連携しつつ、自治体と関係府省庁が協力し、「行政サービス・事業に要した費用」及び「経済社会面、行財政面からの効果」（費用対効果）が分かる指標・データを検討し、明らかにする				

経済・財政再生計画 改革工程表

集中改革期間

2014・2015年度
《主担当府省庁等》

2016年度

2017
年度

2018
年度

2019
年度

2020
年度～

KPI
(第一階層)

KPI
(第二階層)

通常国会

概算要求
税制改正要望等

年末

通常国会

＜⑪民間の大胆な活用による適正な民間委託等の加速＞

○業務改革モデルプロジェクト

助言通知発
出(平成27
年8月28日
付総務大臣
通知)

業務改革モデルプロジェクト
(窓口業務のアウトソーシング、総合窓口の導入、庶務業務の集約化)

- 地方自治体において、(1)住民サービスに直結する窓口業務、(2)業務効率化に直結する庶務業務などの内部管理業務に焦点を当て、民間企業の協力のもとBPRの手法を活用しながらICT化・オープン化・アウトソーシングなどの業務改革を一体的に行い、住民の利便性向上につながるような取組をモデル的に実施。モデル事業の実施を通じて改革の手法を確立し、その手法を横展開
- 政令指定都市等、規模の大きな自治体は一定取組が進んでいることから、人口規模10～20万人程度の団体を主なターゲットとして、2016～2018年度の各年度においてモデルとなるような改革を実践してもらう「業務改革モデルプロジェクト」を6団体において実施
- BPRの実施等計画策定段階において必要な経費について国費で助成

28年度における業務改革モデルプロジェクト実施事業の対象団体として、複数自治体の共同による案件の応募を促し、採用を図る

モデル自治体
6市町村

モデル自治体の取組の他の自治体への波及

窓口業務等に係る住民一人当たりコストや民間委託等による歳出効率化効果について、業務改革モデルプロジェクトにおいて試行的な算定のフォーマットを作成し、算定結果を年度内に公表する

モデル自治体
6市町村

- ・総務省におけるヒアリング等を通じた働きかけ
- ・各都道府県における管内市町村への働きかけ

成果についてモデル自治体で検証

成果についてモデル自治体で検証

モデル自治体
6市町村

成果についてモデル自治体で検証

それぞれの取組について全ての都道府県において新たに取組む市町村が拡大

歳出効率化等の成果の把握手法の検討・確立

上記手法を活用し、歳出効率化等の成果を検証

窓口・庶務業務以外での民間委託促進に係る検討・方針決定

左記方針にもとづき、民間・外部委託を促進

内閣府の標準委託仕様書(案)策定との連携
 >内閣府策定の標準委託仕様書(案)等について、モデル自治体における窓口業務のアウトソーシングへの活用可能性とその検証結果提供

・以下の汎用性のある先進的な改革に取り組む市町村数

(1)窓口業務のアウトソーシング

【208⇒416】
総合窓口の導入

【185⇒370】
(2)庶務業務の集約化

【143⇒286】
(いずれも2014年10月現在⇒2020年度)

・歳出効率化の成果
(事後的に検証する指標)

地方行政分野における改革

《総務省自治行政局》

経済・財政再生計画 改革工程表

集中改革期間

2014・2015年度
《主担当府省庁等》

2016年度

2017
年度

2018
年度

2019
年度

2020
年度～

KPI
(第一階層)

KPI
(第二階層)

通常国会

概算要求
税制改正要望等

年末

通常国会

＜⑪民間の大胆な活用による適正な民間委託等の加速＞

○標準的な業務フローに基づく業務マニュアル・標準委託仕様書の作成

小規模自治体においても窓口業務の民間委託等を進めるため、標準的な業務フローに基づく業務マニュアル・標準委託仕様書等の検討過程で包括民間委託等のアウトソーシング手法の活用についても調査・整理を行い、29年度末までに取りまとめる地方公共サービス小委員会報告書に事例として盛り込む

総務省業務改革モデルプロジェクトとの連携
 > 総務省モデル自治体における窓口業務のアウトソーシングについて、標準委託仕様書(案)等の提供とその活用可能性に係る検証結果反映

1. 地方自治体の窓口業務について民間事業者への委託可能な範囲の整理・地方自治体への通知発出改定

2. 地方自治体の民間事業者への業務委託における偽装請負に関する留意点の整理・地方自治体への情報提供

3. 地方自治体の公金債権回収業務について民間委託のための調査検討・地方自治体への情報提供

1. モデル自治体による業務フローの調査・分析
 > 窓口業務に関するモデル自治体(6団体程度 ※先進自治体を含む)を公募・選定し、実務に即した業務フローやコスト等の調査・分析を行う

2. 委託可能な範囲・適切な民間委託の実施方法の整理
 > 1と並行して関係省庁と連携・調整し、委託可能な範囲及び制度上の課題を整理するとともに、窓口業務等の適切な民間委託の実施方法を整理する

3. 業務マニュアル・標準委託仕様書(案)の検討
 > 1及び2の整理を踏まえ、標準的な業務フローと民間委託の為の業務マニュアル・標準委託仕様書(案)を策定する

4. モデル自治体における試行
 > モデル自治体において標準委託仕様書(案)等に基づいた窓口業務の民間委託を試行し、その結果(法令への適合性、業務効率化の程度、経費の削減効果等)を評価

5. 標準委託仕様書(案)等の修正
 > 4の評価及び総務省モデル自治体における検証結果を踏まえ、標準委託仕様書(案)等について、必要な修正を行う

6. 修正標準委託仕様書等の全国展開
 > 2017年度の修正を踏まえた標準委託仕様書等を全国展開し、地方自治体における窓口業務の民間委託の取組を推進するとともに、法令への適合性、業務効率化の程度、経費の削減効果等を検証

・標準委託仕様書等を使用するモデル自治体数【2016年度：6団体】

・モデル自治体等において、法令等に則り窓口業務の委託を実施できている自治体数、委託により業務の効率化が図られている自治体数

・歳出効率化の成果
(事後的に検証する指標)

モデル自治体におけるコスト計算の条件・調査過程等の事例を踏まえた業務委託の歳出削減効果を測定する簡便なツールを提供し、自治体による民間委託等の検討を支援する

《総務省公共サービス改革推進室》

歳出効率化等の成果を検証

地方行政分野における改革

経済・財政再生計画 改革工程表

		集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度		2017年度	2018年度				
地方行政分野における改革	<p>通常国会</p> <p>概算要求 税制改正要望等</p> <p>年末</p> <p>通常国会</p>								
	<p>＜⑫公共サービスの広域化＞</p> <p>○連携中枢都市圏の形成促進等</p> <p>連携中枢都市圏制度開始 (2015年1月～) ※各地方公共団体が作成する「地方版総合戦略」を踏まえ、形成数のKPIを設定</p> <p>■地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある社会経済を維持するための拠点を形成することを目的とする。連携中枢都市圏を全国展開するため、圏域の形成に向けた取組を支援</p> <p>圏域の形成について、以下の取組等を通じ推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域形成の検討のために必要な経費について国費で助成 (2016年度概算要求2.2億円) 各地域の先進的な地域連携に関する取組事例の情報提供 <p>(注)現在の連携中枢都市(圏)の要件</p> <ol style="list-style-type: none"> 地方圏の指定都市、新中核市(人口20万以上)であって、 昼夜間人口比率概ね1以上を満たす都市を中心とする圏域 <p>左記KPIを踏まえ、圏域の形成を推進</p> <p>2018年度に、これまでの圏域形成に関する取組状況について、検証を行う。この検証を踏まえつつ、KPI達成に向けた取組を推進</p>						<p>各圏域において、その特性を踏まえ、社会人口増減などの適切な指標の設定を含め成果を検証する仕組みを28年度中に構築し、結果を明らかにするよう促す</p>	<p>・「連携中枢都市圏」の形成数 【2015年度に目標圏域数を設定】</p>	<p>・社会人口増減など (事後的に検証する指標)</p>
	<p>○定住自立圏の形成促進等</p> <p>定住自立圏制度開始 (2009年4月)</p> <p>■中心市と近隣市町村が相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体として生活に必要な都市機能(行政サービス・民間サービス等)を確保することを目的とする。各圏域の取組を支援するとともに、新たな圏域の形成を推進</p> <p>新たな圏域の形成を推進</p> <p>2015年度中に実施する取組成果の再検証の結果を踏まえ、人口減少克服の観点から地域連携が有効に機能する仕組みを構築</p> <p>(注)定住自立圏における中心市の要件</p> <ol style="list-style-type: none"> 地方圏の市(人口5万程度以上)であって、 昼夜間人口比率1以上を満たすこと <p>左記の新たな仕組みにより、取組を推進</p>						<p>・「定住自立圏」の協定締結等圏域数 【2020年度までに140圏域】</p>		
	<p>《総務省自治行政局・地域力創造グループ》</p>								

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度	2017年度	2018年度				
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<⑬マイナンバー制度の活用や国による地方自治体のIT化・BPR推進に向けた取組促進策の提示等>							
IT化と業務改革、行政改革等	<p>eガバメント関係会議の下に設置された「国・地方IT化・BPR推進チーム」(主査:政府CIO)において第一次報告書を2015年6月に取りまとめ</p>	<p>マイナンバー・個人番号カード活用によるオンラインサービス改革の検討(2015年度～2016年度)</p>	<p>検討を踏まえた対応方針の具体化</p>	<p>左記対応方針の実施</p>			<p>・各種証明書のコンビニ交付の利用件数 【目標は2016年度中に設定】</p>	<p>・マイナンバー制度の活用や国による地方自治体のIT化・BPR推進による経済・財政効果 (事後的に検証する指標)</p>
		<p>国・地方IT化・BPR推進チーム 第一次報告書に沿って、申請等手続の現状調査、オンライン化・自治体の取組促進策の検討等を進め、追加・見直しの結論を得る</p>	<p>左記の結論について、自治体に周知徹底し、自治体の計画的な取組を促す</p>	<p>左記に基づき引き続き実施</p>			<p>・左記の取組促進策等に沿ってIT化・BPRに取り組んだ自治体数 【目標は2016年度中に設定】</p>	
		<p>マイナンバー制度の活用により国民にとって利便性の高い社会を実現する。具体的には、オンラインサービス改革を進めるため、<u>住民票の写し等のコンビニ交付の実施団体数を、マイナンバーカード導入当初1年となる平成28年度中に、3倍の300団体とし、実施団体の人口の合計も3倍の6000万人を超えることを目指す。また、本年2月に立ち上げた子育てワンストップ・タスクフォースにおいて、対象者の多い児童手当の申請や予防接種のプッシュ通知等、優先すべき課題について28年度中に整理するほか、災害発生時や生活再建支援時等におけるマイナンバー制度の活用についても検討を進める。さらに、関係省庁が連携して、マイナンバーカードの健康保険証としての活用や、公的個人認証の民間部門における普及に向けた検討に取り組む</u></p>						
	<p>変革意欲のある自治体に対して、政府CIO等がアドバイスし、支援できる仕組みの整備に向けた活動を開始</p>	<p>政府CIO等によるアドバイスについて、変革意欲をより効果的に生かせる方法を検討しつつ、引き続き実施</p>					<p>・自治体にアドバイスや意見交換等を行った件数 【目標は2016年度中に設定】</p>	
	<p>地方公共団体のIT化に係る実態の把握、相談・支援の仕組みの方針を検討</p>	<p>地方においてIT戦略等を推進する人材の育成やCIOの役割を果たす人材確保について実態に応じた支援の在り方につき検討、方針を決定</p>	<p>左記の結果を踏まえ、自治体と連携しつつ、取組を促進</p>					
		<p>国と自治体等との間の情報・意見交換の場をITを活用して提供する仕組みを含め、各省の施策と連携しつつ、自治体を支援する仕組みの内容等を具体的に検討し、決定</p>	<p>左記の結果を踏まえ、対策を実施</p>					
	<p>上記の諸施策の経済・財政効果等の検証手法等の検討</p>							
<p>《内閣官房 情報通信技術(IT)戦略室、社会保障改革担当室、総務省関係部局》</p>	<p>国が実施した業務・システム改革等の取組のうち地方公共団体に役立つ事例や、ITダッシュボードの活用など地方公共団体におけるオープンデータの取組の支援、自治体クラウドの先進事例について、政府CIOから首長等に紹介し意識改革を促進するなど、変革意欲のある地方公共団体を支援する取組を更に進めるとともに、新たに採用した地方公共団体の業務に知見のある政府CIO補佐官を政府CIOの行う取組の支援等に充て、取組の強化を行う。また、変革意欲のある地方公共団体におけるIT戦略等を推進する人材の育成やCIOの役割を果たす人材確保についても支援を行う。</p>							

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
		2016年度	2017年度	2018年度					
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<⑭国のオンラインサービス改革、各府省庁の業務改革、政府情報システムのクラウド化・統廃合>								
IT化と業務改革、行政改革等	世界最先端IT国家創造宣言(平成26年6月24日閣議決定)を2015年6月に改定	政府CIO等による各府省へのヒアリング・レビューや「政府情報システム改革ロードマップ」、「政府情報システムに係るコスト削減計画」の見直し等を通じ、世界最先端IT国家創造宣言等に基づく政府情報システムのクラウド化・統廃合、運用コストの削減に向けた取組等を着実に実施する			左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む			・政府情報システム数 【2012年度：1450 目標：2018年度までに半減 (現在、約63%の削減が可能となる見込み)】	・政府情報システム運用コスト 【2013年度：4000億円 目標：2021年度を目途に3割圧縮 (現在約27%の圧縮が可能となる見込み)】
	《内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室、総務省行政管理局》	「国・地方IT化・BPR推進チーム 第一次報告書」に基づいて、進捗状況の把握や必要な措置を行い、行政サービスの改善、業務の効率化・迅速化等の観点からの国の業務改革・情報システム改革を引き続き推進する。28年度においては、情報システムの適切な運用管理とサイバーセキュリティ対策及びこれと一体となった業務改革等の一層の推進のため、各府省に専任の審議官(サイバーセキュリティ・情報化審議官)等を設置して各府省の体制強化等を図り、実効的な取組を推進する							

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019 年度	2020 年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)							
		2016年度	2017 年度	2018 年度											
IT化と業務改革、行政改革等		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会										
	<p>＜⑮(地方)業務の簡素化・標準化、自治体クラウドの積極的展開＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>「電子自治体の取組みを加速するための10の指針」のフォローアップ結果を具体的に取りまとめ、自治体に対し、助言・情報提供等を実施</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>国・地方IT化・BPR推進チームにおいて、自治体クラウドの取組事例(全国で54グループ)について、クラウド化業務範囲、関連経費詳細項目の比較等や、当該経費の削減方策・効果等について深掘り・分析し、その結果を整理・類型化</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>国・地方IT化・BPR推進チームにおける深掘り・分析及び整理・類型化の結果について、自治体に対し、具体的に分かりやすく提供し、助言を実施することにより倍増目標を達成</p> </div> <div style="width: 15%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>クラウド化していない自治体・システムの要因の検証</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 60%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>クラウド化を通じた業務の簡素化・標準化の推進</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>左記の要因の検証を踏まえ、クラウド化・業務改革を一層推進</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 60%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>都道府県における情報システム運用コストの削減に向けた方策を調査・研究し、その結果を具体的に分かりやすく提供し、助言を実施</p> </div> <div style="width: 35%; border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>左記の提供・助言を引き続き実施</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">《総務省地域力創造グループ、内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室》</p> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-right: auto;"> <p>クラウド化への取組状況について、団体数に加え導入対象業務数を含む見える化を行う。自治体クラウドグループの取組事例(全国で56グループ)について、28年夏までに、クラウド化業務範囲、関連経費詳細項目の比較等や、当該経費の削減方策・効果等について深掘り・分析及び整理・類型化を実施し、その成果を活用して自治体クラウド導入の取組を加速する。</p> </div>														<p>・クラウド導入市区町村数 【2014年度：550団体 目標：2017年度までに倍増(約1,000団体)を図る】</p>

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度	2017年度	2018年度				
IT化と業務改革、行政改革等	<p>通常国会</p> <p>概算要求 税制改正要望等</p> <p>年末</p> <p>通常国会</p>	<p>＜⑩公共サービスイノベーションに係る先進事例の全国展開＞</p>					<p>・公共サービスイノベーションの進捗を検証するための指標</p>	<p>・公共サービスイノベーションによる経済・財政効果 (事後的に検証する指標)</p>
	<p>「公共サービスイノベーション・プラットフォーム」において、優良事例の全国展開に向けた課題と対応を取りまとめ</p> <p>必要に応じ会合を開催し、公共サービスイノベーション・プラットフォームで取りまとめた自治体等における先進的な取組を全国展開するためのアクションプランの実行、PDCA、必要な制度改正の検討について議論</p> <p>左記の取組状況を踏まえ、更なる取組を検討・実施する</p>							
	<p>《内閣府政策統括官(経済社会システム担当)、公共サービスイノベーション・プラットフォーム参加省庁等》</p>							
	<p>窓口業務の適正な民間委託等の加速と自治体クラウド等をはじめとするIT化・業務改革を強力に推進する。ITを活用した一括でのアウトソースや自治体のあらゆる業務について境界を越えた広域化・共同化を試みることにより、大きな経済・財政効果がもたらされると期待される。これらの取組の優良事例をそれぞれの分野のトップランナーとして全国展開し、公共サービスのイノベーションを実現するため、内閣府における公共サービスイノベーション・ホームページの開設、公共サービスイノベーション・プラットフォームの地方開催等による周知・広報等に取り組む。また、公共サービスイノベーション・プラットフォームにおいて、広域的な取組を含む先進事例についてどのような自治体で誰が主導しどのような課題を乗り越えて実現に至ったかを28年度早期に評価・分類し、それぞれに応じた普及促進の仕組みを検討・構築したうえで、都道府県の協力も得ながら全国展開を進める。</p>							

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)			
		2016年度		2017年度	2018年度							
IT化と業務改革、行政改革等		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会							
		<p>＜⑰地方税における徴収対策の推進＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>徴収事務の着実な実施(滞納整理機構などの徴収事務の共同処理を含む)及び納税者が税を納付しやすい納税環境の整備を、地方団体に要請</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■滞納整理機構などの徴収事務の共同処理を行っている団体の効果や課題について深掘り・分析し、その結果を整理・類型化</p> <p>■インターネット公売など、効率的・効果的な滞納整理の手法を導入した団体の効果や課題について整理・分類</p> <p>■電子申告の推進や収納手段の多様化(コンビニエンスストア、クレジットカードの活用等)に取り組む団体の効果や課題について整理</p> </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地方団体が行っている先進的な徴収対策の取組を調査・研究した結果を整理・類型化して、具体的に分かりやすく提供</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>左記により、効果的な徴収対策の全国展開</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">《総務省自治税務局》</p>										
								<p>・地方税の徴収率【向上】(2015年度中に基準財政収入額算定上の「標準的な徴収率」を設定)</p> <p>※徴収率については実績をモニタリング</p>				

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間			2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
		2016年度	2017年度	2018年度					
IT化と業務改革、行政改革等	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 通常国会 概算要求 税制改正要望等 年末 通常国会 </div>	<⑱国・地方の公務員人件費の総額の増加の抑制> ○国家公務員							
	国家公務員の総人件費について、「国家公務員の総人件費に関する基本方針」(平成26年7月25日閣議決定)を決定	国家公務員の給与については、労働基本権制約の代償措置として民間準拠で行われる人事院勧告制度を尊重するとの基本姿勢の下、決定	人事院勧告 ※人事院勧告の有無については年度によって異なる	人事院勧告が行われた場合、給与については、人事院勧告制度を尊重するとの基本姿勢に立ち、国政全般の観点から検討を行った上で取扱いを決定する	計画期間を通じ、左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む				・総人件費の額 ・総定員数 (事後的に捕捉する指標)
	《内閣官房内閣人事局》 ○地方公務員	国家公務員の総人件費について、地域間・世代間の給与配分を見直す「給与制度の総合的見直し」の実施や定員合理化等を行うことなどにより、人件費の抑制を図る	定員要求	定員査定・決定					
	地方公務員については、各地方公共団体において、「給与制度の総合的見直し」に着実に取り組むとともに、各地方公共団体の給与事情等を踏まえ、給与の適正化を図る	人事委員会 勧告	地方公務員の給与改定については、各地方公共団体において、地方公務員法の趣旨に沿って、各団体の議会において条例で定める		計画期間を通じ、左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む				・総人件費の額 ・総定員数 ・給与制度の総合的見直しの取組自治体数 (事後的に捕捉する指標)
《総務省公務員部》									

経済・財政再生計画 その他の検討項目

<「税制抜本改革法」を踏まえた地域間の税源の偏在を是正する方策、課税自主権の拡充> 《総務省》

「税制抜本改革法」を踏まえ地域間の税源の偏在を是正する方策を講ずるとともに、地方自治体が自主性を発揮できるよう課税自主権の拡充を図る。

■地域間の税源の偏在の是正については、平成28年度与党税制改正大綱等に沿って、具体的な措置を講じる。

<平成28年度与党税制改正大綱>

○地方創生を推進するためには、地方公共団体が安定的な財政運営を行うことのできる地方税体系を構築する必要がある。こうした観点も踏まえ、地方法人課税については、消費税率(国・地方)8%段階の措置に引き続き、消費税率10%段階においても、地域間の税源の偏在性を是正し、財政力格差の縮小を図るための措置を講ずる。また、地方法人特別税・譲与税を廃止し、法人事業税に還元するとともに、これに代わる偏在是正措置を講ずる。

具体的には、法人住民税法人税割の税率を引き下げるとともに、地方法人税の税率を当該引下げ分相当引上げ、その税込額を交付税及び譲与税配付金特別会計に直接繰り入れ、地方交付税原資とする。更に、地方法人特別税・譲与税に代わる偏在是正措置に伴う市町村の減収補てん、市町村間の税源の偏在性の是正及び市町村の財政運営の安定化を図る観点から、法人事業税の一定割合を市町村に交付する制度を創設する。なお、この偏在是正により生じる財源(不交付団体の減収分)を活用して、地方財政計画に歳出を計上する。

■課税自主権の拡充については、その一層の拡充を図る観点から、必要な制度の見直しを行うとともに、情報提供など地方団体への支援を行う。法定外税の導入件数等については、毎年度、調査の上、公表。

平成28年度税制改正において対応済み

法定外税の導入件数等については、毎年度調査の上、2月頃公表

子どもの医療費については、厚生労働省の「子どもの医療制度の在り方等に関する検討会」において3月に取りまとめた

<地方単独事業について、過度な給付拡大競争を抑制していくための制度改革> 《制度所管府省庁》

■地方単独事業について、過度な給付拡大競争を抑制していくための制度改革を進める。国が果たすべき役割の範囲を制度上明確にする際、地方自治の原則に十分配慮する。

例えば乳幼児医療費などの一部負担金減免については、その在り方について、現行制度の趣旨や国民健康保険財政に与える影響等を考慮しながら、厚生労働省において議論を続けていくこととしている。

<地方交付税制度改革に合わせた留保財源率についての必要な見直し> 《総務省》

■地方交付税制度改革に合わせて、留保財源率については必要な見直しを検討する。

地方交付税制度改革に合わせて、必要な見直しを検討する

経済・財政再生計画 その他の検討項目

<共助社会づくり> 《内閣府》

■「共助社会づくり懇談会」において取りまとめられた報告書「共助社会づくりの推進について～新たな「つながり」の構築を目指して～」を踏まえ、共助社会づくりを推進する。

<ソーシャル・インパクト・ボンドの活用拡大> 《行政・民間》

■貧困・失業対策をはじめとする幅広い分野において、官民連携によるソーシャル・インパクト・ボンド等の活用を拡大する。

共助社会づくりの意義やビジョンを共有するため、8ヶ所で「地方共助社会づくり懇談会」を開催するなど報告書の内容の周知に努めた。
また、社会的インパクト評価の普及を図るため、ワーキング・グループを設置し、社会的インパクト評価の基本概念や普及に向けた課題・対応策をまとめた報告書を取りまとめた

<エビデンスに基づくPDCAサイクルの抜本的強化>

<(行政事業レビュー)定量的な成果目標設定の徹底と一層厳格な自己点検>

<(行政改革推進会議)府省横断的・継続的な検証の推進>

《内閣官房 行政改革推進本部事務局》

■経済・財政一体改革推進委員会の取組と連携しつつ、各府省庁の事業の必要性、効率性、有効性の自己検証・点検を進める。

経済・財政再生アクション・プログラムと行政事業レビュー等との間で、対象のひもづけ、結果の共有・活用等を進めるなど、連携をとりながら、PDCAを回している。

昨年7月より、認知症予防の学習療法SIBの実証事業を委託事業として実施中
成果志向の事業遂行を促進する社会的インパクト評価の推進を行っている。

4. 文教・科学技術、外交、
安全保障・防衛等
(文教・科学技術)

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度		2017年度				
①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	< i 学校規模適正化と学校の業務効率化 >							
	【学校規模適正化】							
	学校規模の適正化に関する各自治体の状況調査・公表 <small>《文部科学省、都道府県、市町村》</small>	学校規模の適正化に関する各自治体の進捗状況について、統廃合等の件数・経費を含め、調査・公表		取組推進・拡大 得られたデータを教職員定数の見直し作成・提示を含む政策に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大			
	統合による魅力ある学校づくりなどのモデル創出に向けた委託研究を実施 <small>《文部科学省から市町村に委託》</small>			取組推進 取組を通じた研究成果の分析、支援策への反映 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大		・学校の小規模化について対策の検討に着手している自治体の割合 【2018年度2/3】 【2020年度100%】	
学校規模の適正化の好事例を継続的に全国展開、各自治体の取組促進 <small>《文部科学省、都道府県、市町村》</small>			取組推進。取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大				
時限的な教員加配などの統合校に対する支援 <small>《文部科学省》</small>			取組推進 実施状況を教職員定数の見直し作成・提示に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大				

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	【学校の業務改善】	<p>教員の業務効率化を進め、教育指導により専念できるよう、教員以外の専門スタッフの学校への配置等を促進</p>			<p>取組推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>	<p>・教員の総勤務時間及びそのうちの事務業務の時間 (2013年調査：週53.9時間、5.5時間) 【2017年調査においていずれも2013年比減を目標】</p>		
	《文部科学省、都道府県、市町村》	<p>学校現場の業務改善ガイドラインの全国普及</p>			<p>取組推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>			
	《文部科学省、都道府県、市町村》	<p>ICT活用による校務改善など学校現場の業務改善に関する取組推進、好事例の全国展開、各自治体の取組促進</p>							
	<p>OECD/TALIS調査に加え、本年度勤務実態調査を実施。教員配置状況やICT活用状況、学校の教育課題等と業務の質の改善との関係についても分析する。</p>								
		<p>業務改善のガイドラインを踏まえた取組のフォローアップ、具体的改善モデルの作成・展開により、自治体における業務改善の取組を促進するとともに、学校現場の教員の質の向上を図る。</p>					<p>・校務支援システムの導入率 【2018年度88% 【2020年度90%】</p>		
		<p>OECD/TALIS調査に加え、負担軽減に配慮しつつ勤務実態調査を実施すること等を通じ、毎年度の状況を把握</p>							

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	2016年度		2017年度				
① 少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	< ii エビデンスの提示 >							
	<p>学校・教育環境に関するデータ(自治体別の児童生徒1人当たりの教職員人件費、学校の運営費、学校の業務改善の取組、学級数別学校数等)について、有識者の協力を得つつ、比較可能な形で調査・公表</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p>				<p>調査を推進・拡大 >得られたデータは都道府県別に「見える化」するとともに、教職員定数の見直し作成・提示を含む政策に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p>		
	<p>教育政策に関する実証研究の枠組み・体制等について研究者・有識者の協力を得つつ検討</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p>				<p>教育政策に関する実証研究を開始 > 各種の加配措置、少人数教育、習熟度別指導など多様な教育政策に関する費用効果分析を含め、研究者・有識者からなる実効性ある研究推進体制の下で、一定数の意欲ある自治体等の協力を得て実施 > 中期の継続的な縦断研究及び短期の研究を実施 1)多面的な教育成果・アウトカムの測定 ・知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲等 ・コミュニケーション能力、自尊心・社会性などの非認知能力 ・児童生徒の行動 2)子供の経時的変化の測定 3)学校以外の影響要因の排除等も考慮</p> <p>別紙注1</p>	<p>実証研究を計画的に実施 >得られた研究成果は成果や費用、政策が実施される背景にある環境要因を「見える化」するとともに、それらを総合的に考慮して教職員定数の中期見直し作成を含む政策形成に漸次活用</p> <p>報告、公表</p>	<p>報告、公表</p>	
<p>全国学力・学習状況調査の研究への活用について、「全国的な学力調査に関する専門家会議」において、文部科学省からの委託研究等以外でも大学等の研究者が詳細データを活用できるよう、提供する詳細データの内容やデータの管理方法、研究成果の公表の在り方など、具体的な貸与ルールを検討・整備</p> <p>《文部科学省》</p>				<p>全国学力・学習状況調査の大学等の研究者による研究への活用推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p>			
<p>別紙注2</p>								

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度	2017年度				
① 少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
	<p>< iii 教職員定数の見通し ></p> <p>教職員定数の中期見通しを策定する前提となる事柄について整理</p> <p>➢ 各種加配措置等の効果について、既存の関連データを十分に活用しつつ、研究者・有識者の協力を得て検討・検証。その結果明らかになった課題は、上記 ii の実証研究に活用</p> <p>➢ 少子化の進展（児童生徒数、学級数の減等）及び小規模化した学校の規模適正化の動向、学校の課題（いじめ・不登校、校内暴力、外国人子弟、障害のある児童生徒、子供の貧困、学習指導要領の全面改訂への対応等）に関する客観的データなどの上記 ii のデータ収集及び実証研究の進展、地方自治体の政策ニーズ等を踏まえた予算の裏付けのある教職員定数の中期見通しを策定、公表、各都道府県・指定都市に提示</p> <p>《文部科学省》</p>							
	<p>< iv ICTを活用した遠隔授業拡大 ></p> <p>モデル事業を通じて高校における遠隔授業実践例を拡大</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p>							
				<p>高校への普及促進</p> <p>高校実践例を踏まえた課題整理、中間検証</p>	<p>データ収集、実証研究の進展に応じ、必要に応じ中期見通しを改定、公表、提示</p> <p>学校・教育環境に関するデータや教育政策の成果及び費用、背景にある環境要因を総合的に考慮して予算要求を行い、教育におけるPDCAサイクルを確立</p> <p>中学校等の授業充実に向けた活用の検討を含め、中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p>			
							<p>(i ~ iv 通じて)</p> <p>・知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・人間性等の資質・能力の調和がとれた個人を育成し、OECD・PISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルの維持・向上を目標とするなど、初等中等教育の質の向上を図る（参考）PISA 2012: OECD加盟国中1～2位</p>	
								<p>OECD/PISA調査やIEA/TIMSS調査に加え、毎年度実施する全国学力・学習状況調査の結果等の活用を通じて、初等中等教育の質について、毎年度の状況を把握</p>

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間					2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度		2017年度				
①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
	<p>< v 大学間の連携や学部等の再編・統合の促進 ></p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>国立大学法人運営費交付金の重点支援による取組の構想(大学間連携、学部等の再編統合を含む)を提案</p> <p>重点支援の対象とする取組構想を選定</p> <p>《国立大学、文部科学省》</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>第3期中期目標期間を通じて取組実施</p> <p>各国立大学の取組構想の進捗状況を確認、各国立大学ごとに予め設定した評価指標を用いて、その向上度合いに応じて段階的な評価を実施し、運営費交付金の重点配分に反映(*取組構想は状況に応じ随時追加・変更)</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>本年度から、6年間の第3期中期目標計画期間において、運営費交付金の中に各大学の機能強化に関する取組構想とその評価に基づき重点配分支援を行う枠組みが新設された。各大学の機能強化の取組構想に対する評価を行い、その結果を各大学の予算配分に反映することを通じて、産業構造の変化等に対応した人材育成を行う組織への転換を促進する。本年度以降、毎年度各大学の取組構想の進捗状況を確認・評価し、その結果に基づいて運営費交付金の重点配分に反映</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>第3期中期目標期間を通じて推進</p> <p>2019年度暫定評価において達成見込みを確認</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> </div>							<ul style="list-style-type: none"> ・学部・学科改組を含む改革構想を提案した国立大学のうち当該構想を実現させたものの割合【2018年度50%】【2020年度90%】 ・大学間連携を含む改革構想を提案した国立大学のうち当該構想を実現させたものの割合【2018年度60%】【2020年度90%】 	<p><後掲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の質の向上に関する指標

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度						2017年度
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
②民間資金の導入促進	< i 国立大学法人運営費交付金を重点配分するインセンティブ導入 >								
	各国立大学において、取組構想の成果を検証する評価指標を設定。民間資金の獲得割合の上昇も一つの指標とする。	各国立大学の取組構想の進捗状況を確認、各国立大学ごとに予め設定した評価指標を用いて、その向上度合いに応じて段階的な評価を実施し、運営費交付金の重点配分に反映			第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認し、民間資金獲得に向けた一層の努力を促す方策を検討		暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大		
	《国立大学、文部科学省》								
	< ii 国立大学の財源の多様化 >								
	国立大学経営力戦略に基づき、各国立大学において、可能な限り民間との共同研究・受託研究に関する目標を設定	各国立大学における研究者、リサーチ・アドミニストレーター（URA）、知的財産の取得・活用、設備利用の支援スタッフ等により産学連携を総合的に企画推進する環境を整備			第3期中期目標期間を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証		中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大	・大学等と民間企業との共同研究件数・受入金額(2013年度:18千件、390億円) 【2018年度:2013年度比1.3倍】 【2020年度:2013年度比1.5倍】	
	《国立大学》								
産学官連携推進上のリスク要因を各大学が適切にマネジメントできる方策について検討	各国立大学が共同研究締結時の不実施補償、秘密保持などの知的財産の取扱いにより共同研究等を制約されないよう、各国立大学において共同研究等に関する戦略策定			第3期中期目標期間を通じて産学連携の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証		中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大			
《文部科学省、国立大学》									
国立大学における余裕金の運用範囲の拡大、収益を伴う事業の範囲の明確化等について検討・制度整備	第3期中期目標期間を通じて財源多様化の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証 各国立大学で更なる民間資金獲得のための方策を整理			中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大					
《文部科学省、国立大学》									
大学と民間企業等との共同研究における間接経費の必要性に係る算定モデル策定について検討	各国立大学において、民間企業等との共同研究における間接経費の在り方について検討し、共同研究契約等に反映			第3期中期目標期間を通じて産学連携の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証		中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大			
《文部科学省、国立大学》									

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度	2017年度					2018年度
② 民間資金の導入促進	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			<ul style="list-style-type: none"> ・応用研究向け研究費制度へのマッチングファンド型の適用状況【2020年度まで増加傾向】 <再掲> ・大学等と民間企業との共同研究件数・受入金額 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の企業ニーズと大学等の技術シーズとのマッチングによる共同研究件数【2018年度600件】【2020年度1000件】 	
	< iii マッチングファンド型制度の適用加速 >								(i ~ iv 通じて)
	マッチングファンド型制度について現状把握 《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)》	マッチングファンド型の適用対象制度を設定	応用研究向けの研究費制度についてマッチングファンド型制度を推進	第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大				
	共同研究・財源多様化などの取組を通じて、民間から大学等・公的機関への研究費流入を促進 《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)》			第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大				
< iv マッチングプランナー制度の活用推進 >									
	《文部科学省》	マッチングプランナー制度の活用推進		活用推進、支援終了後の継続的フォローアップ 取組状況とその成果について中間検証	中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大				

・企業から大学等・公的研究機関への研究費総額(2009～2013年度平均:約0.1兆円(A))
【2018年度:A比1.1倍】
【2020年度:A比1.2倍】 **93**

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
② 民間資金の導入促進	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
	<p>< v 国立大学法人に対する寄附金 ></p> <p>学生等に対する修学支援事業のために充てられる個人からの寄附金に係る税額控除の導入について、平成28年度税制改正において対応 《文部科学省、国立大学》</p> <p>各国立大学において寄附金収入の拡大に向けた専門スタッフの配置や寄附金獲得に向けた戦略策定</p> <p>取組状況とその成果について中間検証し、寄附金獲得に向けた一層の努力を促す方策を検討</p> <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>							<p>・国立大学における寄附金受入額(2014年度:約0.07兆円) 【2018年度:2014年度比1.2倍】 【2020年度:2014年度比1.3倍】</p> <p>(① v、② i ~ v 通じて)</p> <p>・世界大学ランキング:2018年、2020年、2023年を通じて、トップ100に我が国大学10校以上とする、 ・第3期国立大学法人中期目標・計画の達成状況について、2019年度暫定評価において達成見込みを確認し、2021年度に中期目標を全法人において達成することを目標とする、 など高等教育の質の向上を図る。</p>	
		<p>今年度から導入された国立大学法人等への一定の個人寄附に対する税額控除制度について、民間資金の導入促進を図る観点から、その活用により個人寄附の拡大を図る</p>						<p>国立大学法人中期目標・計画の達成状況について、国立大学法人評価委員会による各大学の2019年度暫定評価及び2021年度確定評価に加え、年度評価により、業務運営の改善・効率化等について毎年度の進捗状況を確認</p>	

*国立大学について財政健全化に資する観点からも検討が必要


経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度	2017年度				
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
③ 予算の質の向上・重点化	＜ i 大学改革と競争的研究費改革の一体的推進 ＞							
	大学改革の主な取組	国立大学 経営力戦略の着実な実行 <small>《文部科学省、国立大学》</small>	国立大学法人運営費交付金において、「学長の裁量による経費」を区分し、学長のリーダーシップによる改革の取組を推進		第3期中期目標期間を通じて推進 取組状況とその成果について2018年度に検証		検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大	
		特定研究大学(仮称)制度の検討・制度整備 <small>《文部科学省》</small>			第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認		暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大	
		制度検討 <small>《文部科学省、国公立大学》</small>	卓越研究員制度を実施		第5期科学技術基本計画を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証		中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大	
		産学官からなる検討会において検討 <small>《文部科学省、国公立大学》</small>	国公立大学における卓越大学院(仮称)具体化に向けた取組		卓越大学院(仮称)の具体化に向けた取組、運用開始 運用状況とその成果について中間検証			
	競争的研究費改革と一体的に検討・実施							

経済・財政再生計画 改革工程表

2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
	2016年度		2017年度	2018年度				
	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会				
<p>③ 予算の質の向上・重点化</p> <p>競争的研究費改革の主な取組</p> <p>大学改革と一体的に検討・実施</p>	<p>文部科学省及び内閣府の大学等向け競争的研究費(新規採択案件)について間接経費30%措置</p> <p>《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)、文部科学省》</p>		<p>第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大</p> <p>取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>				
	<p>人事給与システム改革の状況を踏まえ、直接経費からの人件費支出の柔軟化について検討</p> <p>《文部科学省、国立大学》</p>		<p>第5期科学技術基本計画を通じて順次実施・拡大</p>	<p>取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>			
	<p>科学研究費助成事業の改革を推進</p> <p>《文部科学省》</p>			<p>第5期科学技術基本計画を通じて推進</p> <p>取組状況とその成果について中間検証</p>	<p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p>			

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度	2017年度					2018年度
③ 予算の質の向上・重点化	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会			<ul style="list-style-type: none"> ・クロスアポイントメント適用教員数 (2015年現在92人) 【2018年度160人】 【2020年度200人】 ・国立大学の若手(40歳未満)の本務教員数 (2013年度現在16千人) 【2018年度:2015年度比+300人】 【2021年度:2015年度比+600人】 	(i、ii 通じて) 	
	< ii 有能な人材の流動化 > 年俸制・クロスアポイントメント制度など、人事給与システム改革と業績評価に関する第3期中期目標期間を通じた計画を各国立大学において策定 《国立大学》		各国立大学において計画に沿って人事給与システム改革を推進		第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認				暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大
	< iii 研究設備の共用化と研究費の合算使用の促進 > 競争的資金における研究機器の共用の取扱い(2015年4月)をフォローアップ・徹底。競争的資金以外の研究費も同様の取扱いができるよう検討 《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)》		研究設備の共用が可能な範囲を順次拡大		第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証				中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大
	競争的資金における複数研究費の合算使用の取扱い(2015年4月以降公募案件から)をフォローアップ・徹底。研究機器等を購入する場合の合算使用の条件について検討。競争的資金以外の研究費も同様の取扱いができるよう検討 《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)》		研究費の合算使用が可能な範囲を順次拡大		第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証				中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大
	研究設備・機器の新たな共用システムの導入方策について検討 《文部科学省》		研究設備・機器を研究組織単位で一元的にマネジメントする共用システムを導入するとともに、産学官で共用可能な研究施設・設備等を整備・運用		第5期科学技術基本計画を通じて共用システムを推進・拡大するとともに、研究施設間のネットワークを構築(プラットフォーム化) 取組状況とその成果について中間検証		中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・購入した研究設備の共用が可能な事業制度数 (2015年度:19) 【2018年度:2015年度比1.3倍】 【2020年度:2015年度比1.5倍】 ・合算使用が可能な事業制度数 (2015年度:19) 【2018年度:2015年度比1.3倍】 【2020年度:2015年度比1.5倍】 ・共用システムを構築した研究組織数 【2018年度70】 【2020年度100】 	

各大学への個別調査(2018年、2020年)に加え、学校教員統計調査や毎年度把握するクロスアポイントメント適用教員数により毎年度の進捗状況を把握

経済・財政再生計画 改革工程表

	2014・2015年度 《主担当府省庁等》	集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)
		2016年度		2017年度	2018年度				
③ 予算の質の向上・重点化	通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会					
	<p>< iv 総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能強化 ></p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>第5期科学技術基本計画策定</p> <p>科学技術基本計画の方向性の下、科学技術イノベーション総合戦略に基づき、科学技術イノベーション予算戦略会議により予算の重点化、各府省庁の取組連携確保、調整</p> <p>《内閣府政策統括官(科学技術・イノベーション担当)》</p> </div>				<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>第5期科学技術基本計画を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証</p> </div>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> </div>	<p>(i ~ iv 通じて)</p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>・研究の質の向上に関する指標 > 被引用回数トップ10%論文の割合： 2018～2020年の我が国の総論文数に占める被引用回数トップ10%論文数の割合を10%以上とすることを目標</p> </div>		
								<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin: 5px;"> <p>被引用回数トップ10%論文の割合について、2018～2020年の3年移動平均値における目標達成に向け、2～4年前に出版された論文の前年末時点までの被引用回数に基づく数値について毎年度把握し進捗状況を確認</p> </div>	

【注1】

教育におけるPDCAサイクル構築に向けて、「教育政策に関する実証研究」として、教育の目的の多様性と手段の多様性を踏まえ、教育効果や現場における政策ニーズを総合的に把握するため、①学級規模の影響・効果、②加配教員・専門スタッフ配置の効果分析、③高い成果を上げている地域・学校の取組・教育環境の分析、④教員の勤務実態の実証分析の各テーマについて、量的研究と質的研究を組み合わせ実施する

【注2】

教育政策の効果に関する多様な研究活動を促進する観点から、全国学力・学習状況調査の詳細データの大学等の研究者による活用促進について、今年度中にデータ貸与ルールを整備し、平成29年度から貸与が開始できるようにする

4. 文教・科学技術、外交、
安全保障・防衛等
(外交、安全保障・防衛)

経済・財政再生計画 改革工程表

		集中改革期間				2019年度	2020年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)			
2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度		2017年度	2018年度							
		通常国会	概算要求 税制改正要望等	年末	通常国会							
① ODAの適正・効率的かつ戦略的活用	＜ i PDCAサイクルの強化及び評価等に関する情報公開の促進＞											
	開発協力大綱の閣議決定	<ul style="list-style-type: none"> ○可能な限り定量的な評価に向けた改善 <ul style="list-style-type: none"> 課題別の標準的指標例の作成 課題別の標準的指標例の改定、アップデート ○外部評価への多様な主体の参加及び評価結果の活用を促進 <ul style="list-style-type: none"> 開発効果の検証が必要な事業(新たな手法、普及等)へのインパクト評価の実施 事業評価外部有識者委員会による評価プロセス等のレビューの定期的実施 ○ODA「見える化」サイトの活用を促進 <ul style="list-style-type: none"> ODA「見える化」サイトの随時更新 							課題別の標準的指標例を設定した割合【100%】、改定割合【必要に応じ、目安年10%】	インパクト評価の実施件数【5年間で10件以上】	外部評価の着実な実施【10億円以上の事業について100%】	ODA「見える化」サイト掲載案件の更新数【500案件以上/年】
	《外務省》	＜ ii 民間部門等の資源の活用及び経済活動を拡大するための触媒としてのODAの推進＞										
	開発協力大綱の閣議決定	<ul style="list-style-type: none"> ○官民連携による開発協力を推進 <ul style="list-style-type: none"> 「質の高いインフラ」の展開や中小企業等の海外展開支援等によって、民間部門主導の成長を促進し、開発途上国の経済発展を一層力強くかつ効果的に推進するとともに、日本経済の力強い成長にもつなげていく。 							インフラシステムの受注額【2020年に30兆円】			
② 国際機関への拠出	＜国際機関への拠出について評価の基準・指標を明確化し、多面的・定量的な評価による拠出の妥当性検証＞											
	国際機関評価の実施、結果を平成28年度概算要求に反映	毎年の予算概算要求に向け、可能な限り定量的・多面的な国際機関評価を実施して拠出の妥当性を検証し、その結果を翌年度概算要求に反映										
	《外務省》	個別プロジェクトにイヤマークする任意拠出金について、プロジェクト毎の成果目標を公表すると共に、達成状況をフォローアップ										
	《外務省》	評価方法や評価対象等につき外部有識者の意見を聴取する等して、更なるPDCA強化・透明性確保を推進										
		《外務省》										

経済・財政再生計画 改革工程表

	集中改革期間					2019年度～	KPI (第一階層)	KPI (第二階層)	
	2014・2015年度 《主担当府省庁等》		2016年度		2017年度				2018年度
	通常国会	概算要求	年末	通常国会					
③ 効率化への取組・調達改革に係る取組等	<p>＜中期防衛力整備計画に基づく効率的な防衛力整備による費用対効果の向上＞</p> <p>中期防衛力整備計画に基づく調達改革等による効率化の実施</p> <p>中期防衛力整備計画及び経済・財政再生計画を踏まえ、防衛力整備の着実な推進とともに、調達改革等を通じ、一層の効率化・合理化を徹底した防衛力整備に努める。</p>					<p>・長期契約を活用した装備品等及び役務の調達</p> <p>・維持・整備方法の見直し</p> <p>・装備品のまとめ買い</p> <p>・民生品の使用・仕様の見直し、等による縮減見込額【累積額の増額】</p>	<p>平成26年度～平成30年度において7,000億円程度の縮減を目標とする。 (集中改革期間において約4,810億円の縮減を目標とする)※</p>		
	<p>新設された防衛装備庁を中心に調達改革の一層の推進</p> <p>i)プロジェクト管理手法の導入 ii)PBLの適用拡大 iii)随意契約の適用可能範囲の類型化、iv)特別研究官の活用による新しい契約制度の構築 v)安全保障技術研究推進制度の推進</p>							<p>・プロジェクト管理手法の導入 プロジェクト管理の重点対象装備品に選定される品目数(現時点で12品目が対象に選定されており、そのうち4品目の総額は8.2兆円)【増加】</p> <p>・PBLの適用拡大 PBL導入による維持・整備コストの縮減見込額(2016年度予算:99億円の縮減見込み)【累積額の増額】</p> <p>・随意契約の適用可能範囲の類型化 随意契約の適用件数(2013年度調達実績を新規類型案に当てはめたところ、1者応募・応札となっていた約14,000件中約6,000件が随意契約へ移行できたと推計)【拡大】</p> <p>・特別研究官の活用による新しい契約制度の構築 特別研究官による新たな制度の提案数【拡大】</p> <p>・安全保障技術研究推進制度の推進 安全保障技術研究推進制度により採択した研究課題の件数(2015年度実績では9件)【増加】</p>	<p>※「中期防衛力整備計画(平成26年度～平成30年度)」(平成25年12月17日閣議決定)に基づく縮減目標。金額はいずれも契約ベース</p>
	《防衛省、防衛装備庁》								